平成１４年　第２号

ながのけん
埋蔵文化財センター速報

平成１４年１１月１日　発行

古墳時代の木製品

整理作業から

箕輪町　箕輪遺跡

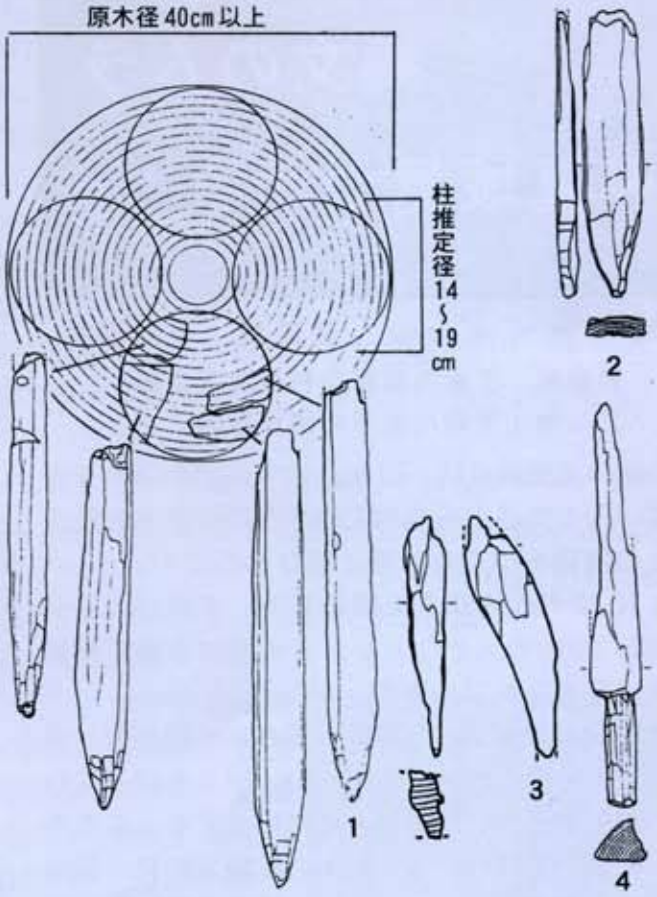
所在地：上伊那郡箕輪町三日町他
立　地：天竜川右岸の沖積地

箕輪遺跡は国道153号伊那バイパス建設に伴って平成12・13年に発掘調査され、古墳時代以後の水田跡や弥生～古墳時代の集落跡などがみつかりました。本年度から発掘の整理を始めることになり、現在は木製品の実測を中心に進めています。今回は箕輪遺跡の古墳時代後期の木製品の一部を紹介したいと思います。

この遺跡は天竜川に近い沖積地にあって水の湧きやすい環境のため、乾燥した場所では腐ってしまう木製品も多く残っていました。木製品は集落跡から出土したものも僅かにありますが、ほとんどは水田の畔に使われていた杭や芯材で、農具や器など生活具はあまり出土していません。杭は枝などの丸木を尖らせたものは少なく、丸木や柱材・板材・角材などの建築材を割って杭としたものが多い傾向があります。おそらく、短期間に大量の杭を使う必要からこのような方法が取られたのでしょう。また、部分的に焼けた材が複数の畔からみつかっており、どこかで焼いた廃材か、火事で焼けた建築材も利用しているようです。

1は高床建物の壁板？（1/24 長さ約170㎝強）。2は田舟（1/24 長さ140㎝弱）。3は馬鋤の部品？(1/12)。4が田下駄？(1/12)。3の馬鋤は馬に引かせる引手孔の位置が他の出土例と違っている。

第１図　箕輪遺跡出土の木製品



1は同一畔出土の木質が似た杭からの木取り推定。直接接合していないため別材かもしれない。2～4は杭として取り上げられたさまざまな材で、2は板材転用の杭(1/12)、3はくり物破片(1/6)、4は柱(1/12)。

第２図　畔内に打ち込まれていた杭

遺跡ニュース

発掘現場から

豊田村　千田（せんだ）遺跡

所在地：下水内郡豊田村豊津字千田
立　地：千曲川左岸の河岸段丘

今回の発掘調査は、20年前の千曲川の洪水を受けて、国土交通省千曲川工事事務所が洪水を防ぐための堤防をつくる工事に伴うものです。

4月22日から調査を開始して、千曲川に沿って幅約40ｍの大きなトレンチを開ける形で発掘調査は進められています。

本年度の調査で、土器や石器の捨て場が何ヶ所も見つかりました。長さ５０ｍ、幅５ｍ以上にわたる広い範囲から遺物が多量に出土するところもあります。これらの捨て場からは縄文時代中期後葉（約4,300年前）を中心に、縄文時代前期，後期、晩期の遺物が出土しています。今のところ、縄文時代前期中頃の土器が地表下約４ｍの深さから出土しており、千田の人達の歴史は約6,000年前まで遡ることがわかっています。

さて、縄文の人たちは何を考えて千曲川に面した崖にモノを捨てたのでしょう。多くの土器片と共に、たくさんの石器と石器を作った時の石屑（いしくず）、縄文人が食べたであろう鹿、猪、狸などの獣骨、あらゆるモノが捨ててありました。なかには、翡翠（ひすい）のペンダント、三角柱状土製品、石棒、河童（かっぱ）形土偶、絵画の描かれた小形壺など希少な遺物も含まれていました。千曲川と向き合った集落の人たちならではの、モノ送りが行われていたのでしょうか。

さて、これらの捨て場の北側に、江戸時代の溝や平安時代の住居跡と共に約700以上の穴が検出されています。いくつかの時代のものが混在していると思われますが、半数以上のものが縄文時代のもので、落し穴なども見つかりました。

そのなかに、径１～1.6ｍ程の長楕円形の土壙（どこう）が20基ほど含まれています。これらはお墓と思われます。土壙墓にはその壁面内側に扁平な河原石を立て並べたものもあり、配石墓と呼ばれるものです。さらに頭部に浅い鉢形の土器を被せて埋葬したと思われる土壙も検出されました（写真３）。

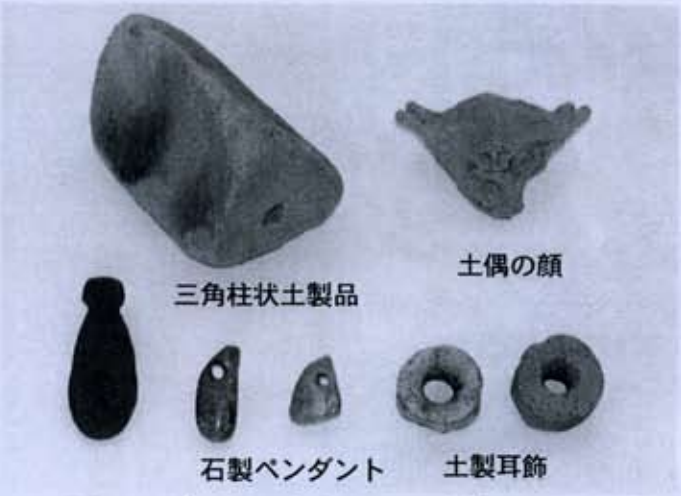


写真１　捨て場から出土した遺物

写真２　斜面部の捨て場（多量の遺物が出土）

写真３　千田遺跡の配石墓

この土壙墓はおそらく子どもを葬ったものであり、縄文時代後期の加曾利Ｂ式土器様式の時期（約3,600年前）であろうと思われます。

他の土壙墓の時期は今のところ明確ではありませんが、頭位の方向は北、西、北西と幾つかにグループ分けできるのではないかと考えています。また、来年度調査予定である、さらに下流（方角的には北東側）部分には、おそらく集落が展開し、遺跡の中心地域が存在すると思われます。今後の詳細な調査が楽しみになってきました。

豊田村は、戦前から神田五六先生をはじめとする考古学研究者によって、上今井の南大原遺跡などの調査が行われ、考古学研究の歴史は古いのです。けれども、縄文時代の村の姿が明確になるような大規模な調査は今まで行われていませんでした。その点で、今回の築堤に伴う発掘調査は大きな意味を持ってくるような気がしています。

更埴市　東中曽根遺跡（ひがしなかそね）

所在地：更埴市八幡字東中曽根
立　地：三峰山より北東にのびる緩斜面上

国道18号坂城更埴バイパス線建設に伴う発掘調査も、今年で３年目を迎え、東条遺跡、東中曽根遺跡、西中曽根遺跡など戸倉町に近い更埴市内の遺跡を中心に調査しています。今回は調査の終盤を迎えた東中曽根遺跡を紹介します。

東中曽根遺跡は、棚田で有名な史跡、更埴市の四十八枚田に近く、善光寺平を一望できる見晴らしの良い北斜面にあります。ここは弥生時代後期の集落跡で、これまでに竪穴住居跡９軒、掘立柱建物跡３棟、溝（自然流路含む）４本が確認され、長軸が８ｍ近い大型住居もありました。また、土坑も100基以上みつかりました。現在この地域は、斜面地の水田や果樹園として造成されているため、削平された遺構が多く、柱穴や周溝だけが検出された住居跡もありました。

５号住居も南半分しか残っていなかったのですが、南東隅の床上から弥生時代後期の壷がほぼ完形でみつかりました。同住居跡の南西部では大量の土器破片が流れ込んだような状態で出土しています（写真４・５）。

また、東中曽根遺跡の西側には西中曽根遺跡が接しており、古墳時代（５世紀）の竪穴住居跡が３軒見つかりました。

写真４
５号住居の
土器出土状況

写真５　５号住居壷出土状況

トロトロ石器と山の神信仰

大町市　山の神遺跡

山の神遺跡から41点出土しているトロトロ石器（異形部分磨製石器）は、長さ2㎝弱から9㎝くらいのものまでさまざまで、その用途は不明です。石材は青白いチャートがほとんどで、形や石の色が大事だったようです。穴や住居跡からまとまって出土したわけではなく、「コ」の字状の石列のまわりに散在しています。このような出土状況は、熊本県瀬田裏遺跡などトロトロ石器が多く出土する遺跡の状況と共通しています。

さて、遺跡に近い「唐子」「常盤」の山の神神社では、山の神のお祭りの日（11/17前後）に山内安全などを祈って剣形を奉納しています。この剣形がトロトロ石器の意味を考えるヒントにはなりそうです。

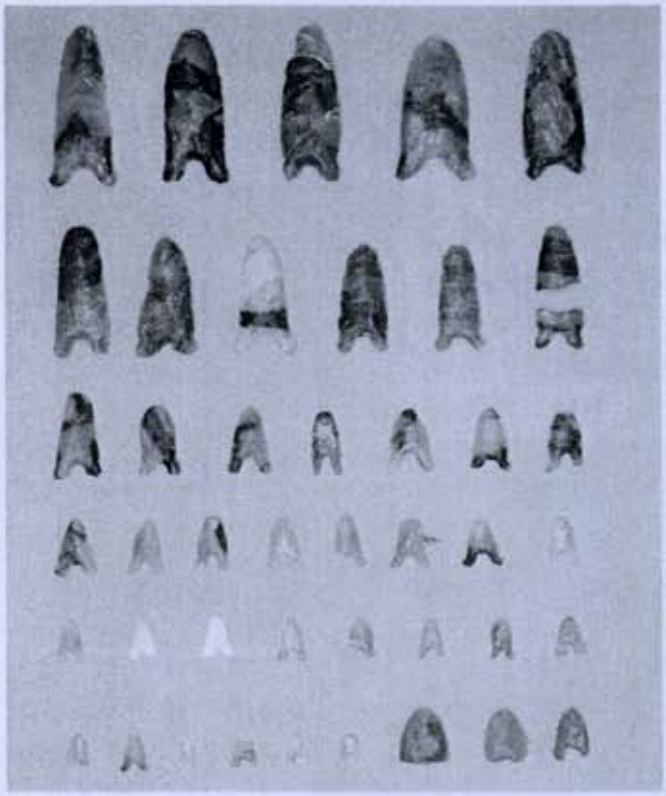


写真6　山の神出土のトロトロ石器

山の神は鍛冶屋の神でもあるので、剣形をお供えしたなどとも言われていますが、数ある金属製品のなかで、なぜ剣形なのでしょうか。山の神は人々に自然の恵みをもたらしてくれると同時に恐ろしい神様です（だから女性を「山の神」と言う？）。ですから、感謝と威嚇の心がないまぜになったものが、剣形に象徴されているのではないでしょうか。まさにトロトロ石器も貴重品でありますが、同時に武器（石鏃）の「ような」形をしています。

写真7　山の神神社の剣形

剣形は形が大事なので、年によって大きさは異なります。回収されないので、剣形が打ち付けられている板が朽ち果てると、剣形は山の神の祠がある「巨石」の周りに散乱し、いつしか埋もれていくことになります。なんだか、トロトロ石器は縄文人が「山の神」に感謝しつつも威嚇したお供え物だったような気がしてきました。

お知らせ

上山田町 力石条里遺跡群 遺跡見学会

11月30日（土）の10：00より実施します。

速報第1号で紹介した、弥生時代前期末の再葬墓、弥生時代後期の集落跡などが見学できます。

問合せ先：長野県埋蔵文化財センター篠ノ井整理棟
TEL　026－293－5926

野　帳　現在、長野県埋蔵文化財センターでは１０遺跡の発掘と、９遺跡の整理作業を行っています。話題は沢山あるはずなのに、前号は弥生時代、今回は縄文時代の墓と、お墓の記事が続きました。お墓はこれでおしまいです。たぶん？（鶴）

長野県埋蔵文化財センター速報
平成14年第2号
平成14年11月1日
（財）長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター
〒387-0007 更埴市屋代字清水260-6
Tel　026－274－3891
Fax　026－274－3892